

経営評価報告書[組織体制シート(各法人共通)]

(A)-1

令和2年7月1日 現在

1. 組織の概要

団体名		代表者(職・氏名)		所在地
公益財団法人しまね海洋館		理事長 島田 一嗣		浜田市久代町1117番地2
		(任期) R1.6.26~R3.6評議員会		
設立時期	設立根拠	県所管課	事業年度終了日	適用会計基準
H25.4 (H9.4)	整備法第44条	しまね暮らし推進課	R2.3.31	公益法人会計基準 (H20.4.11)
基本財産の状況[千円] ※R2.3.31現在		県出資等比率	運用財産の状況[千円] ※R2.3.31現在	
合計額	100,000	100.0%	合計額	396,790
うち県出資等額	100,000		うち取崩しを前提として県が造成補助した財産	-
債務保証の状況[千円] ※R2.3.31現在		県出資等との比率		
債務保証の額		0.0%		
設立目的				
島根県が設置する「島根県立しまね海洋館」の管理運営を通じ、多くの人々が日本海の自然や生態とふれあい、楽しく過ごす場を創造し、賑わいの創出や新たな民間活動の誘発により、地域の活性化に寄与するとともに、水族の保護、保全を含めた海洋自然の大切さについての普及啓発に努めていく。				
主な事業内容				
1 島根県が設置する「しまね海洋館」の管理運営事業 4 水族に関する知識の普及啓発事業 2 水族の収集、飼育及び展示に関する事業 5 水族の保護及び保全の研究に関する事業 3 水族に関する調査研究事業 6 しまね海洋館及び水族に関する広報宣伝事業				

注) 設立時期の欄カッコ書きは、公益法人制度改革による移行前の団体設立時期

2. 役員等数 ※当年度欄はR2.7.1現在、前年度欄はR1.7.1現在

	常勤			非常勤			計		
	当年度	前年度	増減	当年度	前年度	増減	当年度	前年度	増減
理事	1	1	0	6	6	0	7	7	0
うち県OB職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち県職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
監事	0	0	0	2	2	0	2	2	0
うち県OB職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち県職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計(役員計)	1	1	0	8	8	0	9	9	0
うち県OB職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち県職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
評議員	0	0	0	13	13	0	13	13	0
うち県OB職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち県職員	0	0	0	3	3	0	3	3	0
合計	1	1	0	21	21	0	22	22	0
R1年度会議開催数	理事会等		5回	評議員会等		2回			

3. 県職員である役員等の内容

	県における所属・職名等	前年度と比較して異動のあった事項及び人数
理事		
監事		
評議員	西部県民センター所長、浜田県土整備事務所所長、県立少年自然の家所長	

経営評価報告書[組織体制シート(各法人共通)]

(A)-2

4. 職員数 ※当年度欄はR2.7.1現在、前年度欄はR1.7.1現在

	人数			県OB:団体での職名 県派遣:団体での職名(県での所属)	前年度と比較して 異動のあった事項
	当年度	前年度	増減		
正規職員	23	22	1		経営課+1
うち県OB職員	0	0	0		
うち県派遣職員	0	0	0		
うち県職員兼務	0	0	0		
嘱託職員	21	22	▲1		魚類課(学交)▲1
うち県OB職員	0	0	0		
臨時職員等	0	0	0		
うち県OB職員	0	0	0		
計	44	44	0		

5. 人件費の状況(退職手当を除く)

(1) 役員の報酬等

[円]

支給対象人数	役員報酬等の当団体負担額			福利厚生 ・共済費等	人件費計
	報酬	その他	小計		
①当該団体が報酬等の全部を支給している役員					
9人	7,274,800	0	7,274,800	35,324	7,310,124
常勤	7,084,800	0	7,084,800	35,324	7,120,124
(1人当り)	7,084,800	0	7,084,800		
非常勤	190,000	0	190,000	0	190,000
②他団体等が報酬等の一部または全部を負担している役員					
0人	0	0	0	0	0
常勤	0	0	0	0	0
(1人当り)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!		
非常勤	0	0	0	0	0
計(①+②)					
9人	7,274,800	0	7,274,800	35,324	7,310,124
常勤	7,084,800	0	7,084,800	35,324	7,120,124
非常勤	190,000	0	190,000	0	190,000

(2) 正規職員の給与等

[円]

支給対象人数	正規職員の給与等の当団体負担額			福利厚生 ・共済費等	人件費計
	給料	職員手当	賞与		
①当該団体が職員給与等の全部を支給している職員					
22人	84,104,280	13,614,937	29,370,567	21,548,109	148,637,893
(1人当り)	3,822,922	618,861	1,335,026		
②他団体等が職員給与等の一部または全部を負担している職員					
0人	0	0	0	0	0
(1人当り)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!		
計(①+②)					
22人	84,104,280	13,614,937	29,370,567	21,548,109	148,637,893

【人件費の状況に関する記載内容の注意事項】

※
※
※
※

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-1

1. 事業概要

事業名	内部管理業務				
目的及び内容	①人事・経営管理業務 ②予算管理業務 ③経営(運営)計画業務 ④県との施策調整業務 ⑤理事会・経営委員会 ⑥飲料自販機・ロイヤリティ管理業務 ⑦その他一般的施設運営業務 など				
目標(値)	—				
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	目標値	—	—	—	—
	実績値	—	—	—	—

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度(計画)	
コスト	56,783,283	50,545,787	53,564,760	61,996,315	
事業費	27,320,941	24,587,957	26,620,437	34,313,000	
財源内訳	補助金・負担金	0	0	0	0
	うち県分	0	0	0	0
	受託料等	10,393,815	10,393,815	10,490,047	15,540,187
	うち県分	10,393,815	10,393,815	10,490,047	15,540,187
	(上記のうち指定管理料)	10,393,815	10,393,815	10,490,047	15,540,187
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	289,783	3,700	24,774	3,000
	使用料・入場料等	16,437,343	14,190,442	15,891,116	18,769,813
	借入金	0	0	0	0
その他(上記以外)	200,000	0	214,500	0	
人件費	29,462,342	25,957,830	26,944,323	27,683,315	
職員別内訳	役員、評議員	5,239,940	5,220,045	5,199,087	5,319,300
	正規職員、その他職員	24,222,402	20,737,785	21,745,236	22,364,015

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	—	(評価の目安) a: 目標を達成するとともに非常に効果があった b: かなり効果があった c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明	<p>・平成25年4月1日より、「公益財団法人」に移行した。</p> <p>・公益法人の運営や館内水槽等修繕工事などを含めた諸事務について、島根県及び関係機関との連絡調整を図り、理事会・評議員会等に諮りながら効果的に財団運営業務を行うことが出来た。</p>	

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-2

1. 事業概要

事業名	施設維持管理業務			
目的及び内容	①施設・設備のメンテナンス ②施設の維持・修繕工事 ③光熱水費 など			
目標(値)	省エネ法に基づく「エネルギー原単位(原油換算値/床面積)」を150以下に抑える			
		H29年度	H30年度	R1年度
	目標値	150.0	150.0	150.0
	実績値	128.2	134.0	133.1

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度(計画)	
コスト	239,263,937	241,525,346	239,058,550	250,354,270	
事業費	221,970,970	225,059,550	221,921,074	233,990,000	
財源内訳	補助金・負担金	0	0	0	0
	うち県分	0	0	0	0
	受託料等	169,749,270	72,747,354	75,799,381	110,676,480
	うち県分	169,749,270	72,747,354	75,799,381	110,676,480
	(上記のうち指定管理料)	169,749,270	72,747,354	75,799,381	110,676,480
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	0	0	0	0
	使用料・入場料等	52,221,700	152,312,196	146,121,693	123,313,520
	借入金	0	0	0	0
その他(上記以外)	0	0	0	0	
人件費	17,292,967	16,465,796	17,137,476	16,364,270	
職員別内訳	役員、評議員	704,991	710,006	712,012	711,900
	正規職員、その他職員	16,587,976	15,755,789	16,425,463	15,652,370

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	a	(評価の目安) a: 目標を達成するとともに非常に効果があった b: かなり効果があった c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明	<p>・光熱水費について、改修工事が終了し、本館シロイルカプールなどの稼働が始まったが、効率的な運用に努め、目標値を達成した。しかし、使用量は平年ベースを保ったものの、再生可能エネルギー賦課金などの単価が増加傾向であり、金額ベースでの効率化は非常に厳しい状況となっている。</p> <p>・施設及び設備のメンテナンスについて、昨年度に引き続き効率的な運営が出来た。</p> <p>・設備等の維持・修繕に関して、島根県と調整を図りながら展示水槽の改修工事を行った。今後も増加が予想される修繕工事についても同様に修繕計画を立て、島根県と調整を図りながら実施していきたい。</p>	

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-3

1. 事業概要

事業名	集客・来場者対策事業				
目的及び内容	①接客業務 ②送客誘致業務 ③広告宣伝業務 ④来場者対策業務 ⑤集客対策等調査検討業務 など				
目標(値)	総入館者目標人数の達成				
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	目標値	307,650人※	400,000人	385,000人	343,000人
	実績値	288,357人	333,638人	346,004人	

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度(計画)	
コスト	112,211,495	102,744,583	113,418,668	131,874,341	
事業費	61,962,828	49,004,518	62,332,143	75,914,000	
財源内訳	補助金・負担金	200,000	0	0	0
	うち県分	0	0	0	0
	受託料等	37,297,418	17,323,025	27,218,039	25,900,311
	うち県分	37,297,418	17,323,025	27,218,039	25,900,311
	(上記のうち指定管理料)	17,323,025	17,323,025	17,483,411	25,900,311
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	0	0	0	0
	使用料・入場料等	24,465,410	31,681,493	35,114,104	50,013,689
借入金	0	0	0	0	
その他(上記以外)	0	0	0	0	
人件費	50,248,667	53,740,065	51,086,525	55,960,341	
職員別内訳	役員、評議員	0	0	0	0
	正規職員、その他職員	50,248,667	53,740,065	51,086,525	55,960,341

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	b	(評価の目安) a: 目標を達成するとともに非常に効果があった b: かなり効果があった c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明	<p>・目標値には届かなかったものの、昨年度を上回る入館者を達成した。</p> <p>・3月に入り、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、シロイルカパフォーマンスをはじめ各種イベントを休止することとなり、急激に入館者が減少した。</p> <p>・集客対策(魅力アップ)事業を実施した。</p> <p>◎飼育の日イベント: サメ水槽探検隊、ペンギン館おそうじ隊などを実施した(4/19~21)</p> <p>◎ゆったり親子の会、ファンクラブの日の開催など(通年) ◎ナイトアクアスの開催(8/23~25)</p>	

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-4

1. 事業概要

事業名	水族収集・飼育・展示事業			
目的及び内容	①海獣類の飼育・展示業務 ②魚類の飼育展示業務 ③調餌作業 など			
目標(値)	飼育種・点数(400種10,000点)の達成			
		H29年度	H30年度	R1年度
	目標値	400種・10,000点	400種・10,000点	400種・10,000点
	実績値	476種・11,058点	432種・11,091点	406種・9,196点

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度(計画)
コスト	154,681,720	153,650,296	155,964,330	164,655,741
事業費	49,890,652	52,911,074	49,825,835	52,206,000
財源内訳	補助金・負担金	0	0	0
	うち県分	0	0	0
	受託料等	14,212,309	13,574,203	13,270,048
	うち県分	14,117,701	13,485,244	13,195,658
	(上記のうち指定管理料)	13,032,000	13,032,000	13,152,658
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0
	資産運用収入	0	0	0
	使用料・入場料等	35,678,343	39,336,871	36,555,787
	借入金	0	0	0
その他(上記以外)	0	0	0	
人件費	104,791,068	100,739,222	106,138,495	112,449,741
職員別内訳	役員、評議員	704,991	710,006	712,012
	正規職員、その他職員	104,086,077	100,029,215	105,426,483

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	b	(評価の目安)	a: 目標を達成するとともに非常に効果があった b: かなり効果があった c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明	<p>【飼育・展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニアクアリウムで季節水槽展示(各月) など <p>【研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鯨類・カメ漂着調査 <p>※ 目標値を下回ったが、展示に大きな課題は生じていない。今後、目標値を達成できるよう努力したい。</p> <p>【収集・繁殖】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オウサマペンギン1羽搬入(12/18: 越前松島水より) ・オウサマペンギン1羽搬入(3/10: 下関水より) ・フンボルトペンギン、オウサマペンギン孵化 ・ゴマフアザラシ繁殖 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シロイルカ、アシカアザラシパフォーマンス実施 ・お食事タイム、ペンギンパレードの実施 		

経営評価報告書[事業実績シート(各法人共通)]

(B)-5

1. 事業概要

事業名	学習交流事業			
目的及び内容	①ボランティアの育成・支援事業 ②調査研究事業(海洋生物の漂着調査等) ③主催スクール事業 ④各種教育活動(学校団体等受け入れ等) ⑤教育プログラム作成及び情報発信活動 ⑥特別企画展事業 ⑦地域交流事業(地域交流イベント実施・地元振興イベント支援)			
目標(値)	主催スクール事業の開催回数			
		H29年度	H30年度	R1年度
	目標値	35	35	35
	実績値	38	35	42

2. コスト等の推移

(単位:円)

区分	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度(計画)	
コスト	33,756,279	34,667,122	41,209,216	34,144,333	
事業費	7,192,775	9,405,220	14,896,042	16,385,000	
財源内訳	補助金・負担金	0	0	9,780,000	0
	うち県分	0	0	0	0
	受託料等	1,907,122	1,907,122	1,924,779	2,851,410
	うち県分	1,907,122	1,907,122	1,924,779	2,851,410
	(上記のうち指定管理料)	1,907,122	1,907,122	1,924,779	2,851,410
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	0	0	0	0
	使用料・入場料等	5,285,653	7,498,098	3,191,263	13,533,590
	借入金	0	0	0	0
その他(上記以外)	0	0	0	0	
人件費	26,563,504	25,261,902	26,313,174	17,759,333	
職員別内訳	役員、評議員	704,991	710,006	712,012	711,900
	正規職員、その他職員	25,858,513	24,551,896	25,601,162	17,047,433

3. 事業実績に対する評価等

指標に基づく評価	a	(評価の目安) a: 目標を達成するとともに非常に効果があった b: かなり効果があった c: 効果が十分でなく手法を見直す必要がある d: 効果が出ておらず、事業そのものを見直す必要がある
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・主催スクール事業として「サマースクール」「アクアス体験スクール」等を合計6種、計42回開催した。 ・特別企画展を3回実施した。①「水辺の世界×彫刻」(春～GW) ②「太古からつながる海～化石は語る～」(夏～秋) ③「ひれあしわーど」(冬～GW) ・夏季に小中学生を対象とした「わんぱく探検隊」、お盆に一般の方も参加可能な「バックヤードツアー」を、冬場に一般の方も対象とした「みんなの知らないアクアスツアー」というバックヤードツアーを開催した。 ・3月から新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、各種イベントを休止となった。(スクール他) ・地域交流イベント「アクアス春祭り」は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、延期・中止となった。 ・福祉週間(児童・敬老・障がい者)の無料開放を実施(減免人数:5,317人、減免額5,831千円) 	

経営評価報告書[事業実績総コストシート(各法人共通)]

(C)

コスト等の推移

(単位:円)

区分	H29度	H30年度	R1年度	R2年度(計画)	
総コスト	596,696,714	583,133,133	603,215,524	643,025,000	
事業費	368,338,166	360,968,319	375,595,531	412,808,000	
財源内訳	補助金・負担金	200,000	0	9,780,000	0
	うち県分	0	0	0	0
	受託料等	233,559,934	115,945,519	128,702,294	174,563,026
	うち県分	233,465,326	115,856,560	128,627,904	174,453,026
	(上記のうち指定管理料)	212,405,232	115,403,316	118,850,276	174,453,026
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	289,783	3,700	24,774	3,000
	使用料・入場料等	134,088,449	245,019,100	236,873,963	238,241,974
	借入金	0	0	0	0
その他(上記以外)	200,000	0	214,500	0	
人件費	228,358,548	222,164,814	227,619,993	230,217,000	
職員別内訳	役員、評議員	7,354,914	7,350,064	7,335,124	7,455,000
	正規職員、その他職員	221,003,634	214,814,750	220,284,869	222,762,000
財源内訳	補助金・負担金	0	0	0	0
	うち県分	0	0	0	0
	受託料等	72,428,084	72,428,084	73,098,664	108,289,974
	うち県分	72,428,084	72,428,084	73,098,664	108,289,974
	(上記のうち指定管理料)	72,428,084	72,428,084	73,098,664	108,289,974
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	0	0	0	0
	使用料・入場料等	15,930,464	149,736,730	154,521,329	121,927,026
	借入金	0	0	0	0
その他(上記以外)	0	0	0	0	
総コストの財源内訳	補助金・負担金	200,000	0	9,780,000	0
	うち県分	0	0	0	0
	受託料等	305,988,018	188,373,603	201,800,958	282,853,000
	うち県分	305,893,410	188,284,644	201,726,568	282,743,000
	(上記のうち指定管理料)	284,833,316	187,831,400	191,948,940	282,743,000
	県が造成補助した運用財産の取崩収入	0	0	0	0
	資産運用収入	289,783	3,700	24,774	3,000
	使用料・入場料等	150,018,913	394,755,830	391,395,292	360,169,000
	借入金	0	0	0	0
その他(上記以外)	200,000	0	214,500	0	
総コスト(財源内訳の計)	456,696,714	583,133,133	603,215,524	643,025,000	

経営評価報告書[財務状況シート(各法人共通)]

(D)

1. 貸借対照表に関する項目

科目	コード	H29年度	H30年度	R1年度
I 資産				
流動資産	a	160,001,058	100,274,787	79,259,036
現金・預金	b	19,734,080	71,178,908	38,495,299
その他の流動資産	c	140,266,978	29,095,879	40,763,737
固定資産	d	597,004,154	595,609,970	595,819,999
基本財産	e	100,000,000	100,000,000	100,000,000
基本財産以外の固定資産	f	497,004,154	495,609,970	495,819,999
うち特定資産	g	164,930,306	169,368,956	177,229,819
(固定資産の性質別内訳)				
有形固定資産		32,062,718	23,426,714	16,348,280
無形固定資産		0	0	0
投資等		300,011,130	302,814,300	302,241,900
資産計	h	757,005,212	695,884,757	675,079,035
II 負債				
流動負債	i	63,172,111	44,327,684	39,459,598
短期借入金	j	0	0	0
うち県からの短期借入金	k	0	0	0
その他の流動負債	l	63,172,111	44,327,684	39,459,598
固定負債	m	126,530,306	130,968,956	138,829,819
長期借入金	n	0	0	0
うち県からの長期借入金	o	0	0	0
その他の固定負債	p	126,530,306	130,968,956	138,829,819
負債計	q	189,702,417	175,296,640	178,289,417
III 正味財産・資本				
基本金	r	100,000,000	100,000,000	100,000,000
うち県の出資・出えん分	s	100,000,000	100,000,000	100,000,000
基本金以外の正味財産・資本	t	467,302,795	420,588,117	396,789,618
当期正味財産・資本増減	u	▲ 28,197,049	▲ 46,714,678	▲ 23,798,499
準備金・前期繰越等	v	495,499,844	467,302,795	420,588,117
(うち県が造成補助した取崩し型運用財産)	w	0		0
正味財産・資本計	x	567,302,795	520,588,117	496,789,618
負債と正味財産・資本の合計	y	757,005,212	695,884,757	675,079,035

【貸借対照表に関する項目の記載内容の注意事項】

※
※

参考: 正味財産の内訳(新公益法人会計適用団体のみ)

科目	コード	H29年度	H30年度	R1年度
正味財産				
指定正味財産	①	100,000,000	100,000,000	100,000,000
うち基本財産への充当額	②	100,000,000	100,000,000	100,000,000
うち特定資産への充当額	③	0	0	0
一般正味財産	④	467,302,795	420,588,117	396,789,618
うち基本財産への充当額	⑤	0	0	0
うち特定資産への充当額	⑥	38,400,000	38,400,000	38,400,000
正味財産計	⑦	567,302,795	520,588,117	496,789,618

経営評価報告書[財務状況シート]

(D)-2

1-2. 資産に関する項目

(単位:千円)

固定資産	a	595,820
基本財産	b	100,000
有形固定資産	c	0
無形固定資産	d	0
投資等	e	100,000
基本財産以外の固定資産	f	495,820
有形固定資産	g	16,348
無形固定資産	h	0
投資等	i	479,472

有形固定資産(g)の内容

主な資産	価額(千円)	資産の保有目的
建物	1,289	財産を利用して水族館運営事業を実施する
構築物	1,235	財産を利用して水族館運営事業を実施する
建物付属設備	163	財産を利用して水族館運営事業を実施する
什器備品	11,663	財産を利用して水族館運営事業を実施する
少額備品	1,999	財産を利用して水族館運営事業を実施する

無形固定資産(h)の内容

主な資産	価額(千円)	資産の保有目的

投資等(i)の内容

区分	価額(千円)	資産の保有目的
特定資産 退職給付引当資産	138,830	職員の退職給付引当資産として
特定資産 減価償却引当資産	38,400	財団所有備品類の更新費として
長期前払費用	2,242	ホームページ作成費用(繰延資産)
運用財産 投資有価証券	100,000	財産の運用益及び財産の一部を利用して水族館運営事業を実施する
運用財産 長期定期預金	200,000	財産の運用益及び財産の一部を利用して水族館運営事業を実施する

経営評価報告書[財務状況シート(公益法人等)]

(E)

2. 正味財産増減計算書に関する項目

科目	コード	H29年度	H30年度	R1年度
I 一般正味財産増減の部				
経常増減の部				
経常収益	①	568,580,667	536,499,459	579,498,029
基本財産運用益	ア	289,783	3,700	3,700
特定資産運用益	イ	0	0	21,074
入会金・会費	ウ	0	0	0
事業収益	エ	260,769,942	347,310,434	366,209,871
補助金収益	オ	272,500	0	9,994,500
うち県からの補助金	カ	72,500	0	0
受託等収益	キ	305,988,018	188,373,603	201,800,958
うち県からの受託等収益	ク	305,893,410	188,284,644	201,726,568
うち指定管理料	ケ	284,833,316	187,831,400	191,948,940
負担金収益	コ	0	0	0
うち県からの負担金収益	サ	0	0	0
寄付金収益	シ	0	0	0
雑収益	ス	1,260,424	811,722	1,467,926
うちその他の財産の運用による利息等収益	セ	593,933	187,074	202,125
経常費用	②	596,696,714	583,133,133	603,215,524
事業費	ソ	590,346,840	576,795,405	596,867,593
うち自主事業に係る事業費	タ	590,346,840	576,795,405	596,867,593
管理費	チ	6,349,874	6,337,728	6,347,931
(うち人件費)	ツ	228,358,548	222,164,814	227,619,993
評価損益等調整前当期経常増減額(①-②)	③	▲ 28,116,047	▲ 46,633,674	▲ 23,717,495
評価損益等調整額	テ	0	0	0
当期経常増減額(③+テ)	④	▲ 28,116,047	▲ 46,633,674	▲ 23,717,495
経常外増減の部				
当期経常外増減額	⑤	▲ 2	▲ 4	▲ 4
経常外収益	ト	0	0	0
経常外費用	ナ	2	4	4
税引前当期一般正味財産増減額(④+⑤)	⑥	▲ 28,116,049	▲ 46,633,678	▲ 23,717,499
法人税、住民税及び事業税	ニ	81,000	81,000	81,000
税引後当期一般正味財産増減額(⑥-ニ)	⑦	▲ 28,197,049	▲ 46,714,678	▲ 23,798,499
一般正味財産期首残高	又	495,499,844	467,302,795	420,588,117
一般正味財産期末残高(⑦+又)	⑧	467,302,795	420,588,117	396,789,618
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	ネ	0	0	0
指定正味財産期首残高	ノ	100,000,000	100,000,000	100,000,000
指定正味財産期末残高(ネ+ノ)	⑨	100,000,000	100,000,000	100,000,000
III 正味財産期末残高(⑧+⑨)				
	⑩	567,302,795	520,588,117	496,789,618

【備考】

基本財産からの取崩収入	ハ	0	0	0
うち県分	ヒ	0	0	0
特定資産からの取崩収入	フ	0	0	0
うち県分	ヘ	0	0	0
借入金収入	ホ	0	0	0
うち県分	マ	0	0	0
その他	ミ	0	0	0
うち県分	ム	0	0	0
計(ハ+フ+ホ+ミ)	⑪	0	0	0
収入計(①+ト+⑪)	⑫	568,580,667	536,499,459	579,498,029
職員数[人]	メ	43	45	45

経営評価報告書[財務状況シート(公益法人等)]

(G-1)

4. 評価指標に関する項目(公益法人等)

No.	指標名	計算式	内容	H29年度	H30年度	R1年度	
安全性・健全性	1 自己資本比率	正味財産・資本計÷資産計×100%	x/h	総資本にしめる返済義務の無い自己資本の割合から、外郭団体の財務基盤の安定性・健全性をみる。	74.9%	74.8%	73.6%
	2 流動比率	流動資産÷流動負債×100%	a/i	1年以内に返済しなければならない流動負債に対する1年以内に資金化できる流動資産の比率から、外郭団体の支払能力をみる。	253.3%	226.2%	200.9%
	3 固定長期適合率	固定資産÷(固定負債+正味財産・資本計)×100%	d/(m+x)	固定的な資金調達(自己資本+長期負債)に対する固定資産の比率から、外郭団体の固定資産投資の安全性をみる。	86.0%	91.4%	93.7%
	4 借入金依存率	借入金収入÷当期収入合計×100%	ホ/⑩	当期収入額に占める借入金収入の割合から、外郭団体の借入金への依存度をみることにより、財務基盤の健全性をみる。	0.0%	0.0%	0.0%
貸借対照表における借入金計÷資産計×100%		(j+n)/h	金利負担のある負債と外郭団体等が調達した全ての資産との比率から、外郭団体等の調達資金の安定性と金利変動に対する経営リスクを見る。	0.0%	0.0%	0.0%	
効率性	5 人件費比率	人件費÷経常費用×100%	ツ/②	当期費用に占める人件費の割合から、外郭団体等の経営の効率性をみる。	38.3%	38.1%	37.7%
	6 管理費比率	管理費÷経常費用×100%	チ/②	当期費用に占める管理費の割合から、外郭団体の経営の効率性をみる。	1.1%	1.1%	1.1%
	7 職員一人あたり事業収益額	事業収益÷職員数	エ/メ	職員一人あたりの事業収益の推移をみることにより外郭団体の効率性をみる。	6,064,417.3	7,718,009.6	8,137,997.1
	8 基本財産運用効率	基本財産運用益÷基本財産×100%	ア/e	資金運用益の状況から基本財産の運用効率を判断する。	0.3%	0.0%	0.0%
自主性	9 県への財政的依存度	県からの収益(補助金+受託等+負担金)÷経常収益×100%・・・(1)	(カ+ク+サ)/①	経常収益に占める県からの補助金等の割合から、財政上の県との関わり具合を判断する。	53.8%	35.1%	34.8%
		(1)の収益から県の指定管理料を控除した場合	(カ+ク+サ-ケ)/①	(1)より、県の指定管理料を控除して算定した依存度により、財政上の県との関わり具合を判断する。	3.7%	0.1%	1.7%
		※参考 (1)の収益+特定資産からの取崩収入のうち県分)÷経常収益×100%・・・(2)	(カ+ク+サ+ヘ)/①	(1)に加え、特定資産からの取崩収入のうち県分を加味し、財政上の県との関わり具合を判断する。	53.8%	35.1%	34.8%
		(2)の収益から県の指定管理料を控除した場合	(カ+ク+サ+ヘ-ケ)/①	(2)より、県の指定管理料を控除して算定した依存度により、財政上の県との関わり具合を判断する。	3.7%	0.1%	1.7%
	10 受託等収益率	受託等収益÷経常収益×100%	キ/①	経常収益の中に占める受託等の割合から、受託事業への依存度を判断する。	53.8%	35.1%	34.8%
	11 補助金収益率	補助金収益÷経常収益×100%	オ/①	経常収益の中に占める補助金の割合から、補助金収益への依存度を判断する。	0.0%	0.0%	1.7%
12 自主事業比率	自主事業費に係る事業費÷事業費×100%	タ/ソ	事業費に占める自主事業の割合から、自主事業への取り組み状況を判断する。	100.0%	100.0%	100.0%	

指標にかかるコメント等

■No.9県への財政的依存度、No.10受託等収益率：H29年度に改修工事に伴うパフォーマンス休止による入館者減に対して減収補填(指定管理料増額対応)があったため、この年度のみ比率が高くなっている。

経営評価報告書[項目別チェックシート(各法人共通)]

(I)

1. 団体の存在意義および存続性にかかる項目

チェック項目	評価	説明
事業内容が設立目的に合致しているか ----- A: 全ての事業が目的に合致 B: かなりの事業が目的に合致 C: 目的に合致するものが少ない	A	
設立目的に合致した社会的要請があり、公益団体として存在意義が認められるか ----- A: 認められる B: 社会的要請は減少してきているが認められる C: 存在意義が薄れつつあるまたはほとんど無い	A	
設立目的及び事業内容が類似する非営利団体があるか ----- A: 全くないまたは存在するが、合理的理由により差別化ができる B: 差別化の理由が希薄であるが、代替は困難 C: 代替することが比較的容易	A	
類似する事業内容を行う営利企業があるか ----- A: 全くないまたは存在するが、合理的理由により差別化ができる B: 差別化の理由が希薄であるが、代替は困難 C: 代替することが比較的容易	A	設置目的、立地条件、運営方式などを鑑みると、営利企業では果たせない役割がある。
団体として人的体制が整っているか ----- A: 事業規模に応じたプロパー職員がいる B: 県派遣等を含め事業に対応した体制になっている C: プロパー職員が極端に少ないまたはいない	A	現状は問題ないが、プロパー職員の年齢構成が偏っている。将来的な運営を考えた採用計画を検討する必要がある。
財政基盤の面で安定しているか ----- A: 取り崩し型運用財産以外の自主的財源があり安定している B: 安定した補助金や受託事業収入があり当面安定している C: 不安定な補助金、受託事業や取り崩し型運用財産に頼っており不安定	A	

自己評価の点数化集計

Aと回答した数 × 2点 = 点

Bと回答した数 × 1点 = 点

Cと回答した数 × 0点 = 点

計 点 …①

総回答数 × 2点 = 点 …②

比率 $\frac{①}{②} \times 100 =$

%

2. 組織体制および運営状況にかかる項目

チェック項目	評価	説明
理事会等は適正に開催され、かつその機能は十分に発揮されているか ----- A: 定期に加え、必要の都度機動的に開催し、重要事項を決定している B: 定期開催時に事業内容等についても合わせて審議している C: 定例的なもののみで議事内容も定例的なものにとどまっている	A	定期開催時に予算決算の他、事業内容についても詳しく審議している。また、重要事項の決議の際は、臨時理事会を開催できるような体制を整えている。
評議員会等は適正に開催され、かつその機能を十分発揮されているか ----- A: 定期に加え、必要の都度機動的に開催し、重要事項を審議している B: 定期開催時に事業内容等についても合わせて審議している C: 定例的なもののみで議事内容も定例的なものにとどまっている	A	定期開催時に予算決算の他、事業内容についても詳しく審議している。また、重要事項の決議の際は、臨時評議員会を開催できるような体制を整えている。
組織人員のスリム化に向けた見直しを行っているか ----- A: 見直しを行い、実施している又は見直しを行う必要がない B: 見直しの作業を行っている C: 見直しの必要があるが行っていない	A	
役員報酬規程、職員給与規程、就業規則、決裁規則、会計・経理規程等が整備され、適切に運用されているか ----- A: 必要な規程は全て整備され適切に運用されている B: 職員の周知徹底を含め運用に不十分な点がある C: 必要な規程が整備されていない	A	
情報公開・個人情報保護に関する規程を定めているか ----- A: 2つとも定めている B: 一方を定めていない C: 2つとも定めていない	A	両規程とも定めている。 情報公開要綱 : H14. 4. 1 個人情報保護要綱: H15. 4. 1
事業活動内容・財務状況等について広報誌やホームページ等で積極的に情報公開しているか ----- A: 全て公開している B: 一部公開している C: 公開していない	A	
人材育成・能力開発を行っているか ----- A: 研修会を開催したり、外部研修会に参加させるなどを十分に行っている B: 十分ではないが行っている C: 行っていない	A	

自己評価の点数化集計

Aと回答した数 × 2点 = 点

Bと回答した数 × 1点 = 点

Cと回答した数 × 0点 = 点

計 点 …①

総回答数 × 2点 = 点 …②

比率 $\frac{①}{②} \times 100 =$

%

3. 事業の実施状況にかかる項目

チェック項目	評価	説明
提供するサービスに対する顧客満足度及び顧客のニーズの把握に努めているか ----- A: あらゆる機会を捉え、積極的に調査を行い把握に努めている B: 十分ではないが必要に応じ把握に努めている C: あまり努めていない	A	アンケートや接客業務スタッフの連絡及び業務日報、お問い合わせメールなどから情報収集を行い、定例会議などで情報共有している。
団体として将来見通しを立て、計画的に事業実施を図っているか ----- A: 数値目標、収支計画、年次計画を盛り込んだ計画を策定し事業を行っている B: 一部の事業、一部の内容についての計画または短期的な計画を策定し事業実施している C: 計画的な実施ができていない	A	
事業実施にあたって目標数値等を設定し、達成状況を評価・活用しているか ----- A: 目標を設定し、評価・活用している B: 目標を設定しているが達成状況の評価にとどまっている C: できていない	A	
事業毎に費用対効果を分析し、事業見直しに活用しているか ----- A: 十分に分析し、活用している B: かなり分析し、活用している C: あまり分析せず・活用していない	A	
コストを抑制して、事業活動を効率的に行っているか ----- A: 少ないコストにより、多くの事業活動を効率的に行っている B: コストの抑制に心がけているが、事業活動が効率的とはいえない C: 行っていない	A	
受託事業の再委託率が高くなっていないか ----- A: 低いまたは低下傾向にある B: 高いが合理的理由がある C: 高く、再委託先に任せきりにしている事業が多数ある	A	特殊な機器があり、専門性の高い機器は再委託によりメンテナンスを行っているが、その割合は事業費に対して1割程度であり、低いと考える。
保有資産の有効活用が図られているか ----- A: 資産の有効活用により、十分な事業活動が可能である。 B: 資産を活用しているものの、事業活動の成果が十分とは言えない C: 資産が活用されていない又は保有目的が不明確な資産がある	A	

自己評価の点数化集計

Aと回答した数	<input type="text" value="7"/>	× 2点	=	<input type="text" value="14"/>	点	
Bと回答した数	<input type="text" value="0"/>	× 1点	=	<input type="text" value="0"/>	点	
Cと回答した数	<input type="text" value="0"/>	× 0点	=	<input type="text" value="0"/>	点	
				計	<input type="text" value="14"/>	点 …①
総回答数	<input type="text" value="7"/>	× 2点	=	<input type="text" value="14"/>	点 …②	
				比率	$\frac{①}{②} \times 100 =$	<input type="text" value="100"/> %

4. 財務状況および財務指標にかかる項目

チェック項目		評価	説明
安定性	1 自己資本比率が低下傾向にないか A: 低下傾向にない B: 低下傾向にあるが、緩やかである C: 近年大幅に低下する傾向にある	A	
	2 流動比率が100%以上あるか A: 100%以上ある B: — C: 100%未満である	A	
	3 前年度末現在の借入金の返済が可能か A: 借入当初の返済計画通り返済が可能 B: 当初の返済計画通りいかないが返済計画の見直しを行った C: 返済計画の見直しの必要がある	—	
	4 借入金依存度(借入金÷総資産)が適正か A: 横ばいまたは低くなっている B: 上昇傾向にあるが、合理的な理由がある C: 上昇傾向にあり、適正でない	—	
	5 資産の管理は適切か A: 資産の時価評価(又はそれに準じた評価)が行われており、価値が確保されている B: 資産の時価評価(又はそれに準じた評価)が行われているが、価値が低下している C: 資産の時価評価(又はそれに準じた評価)が行われていない	A	
効率性	6 人件費比率は適正か A: 横ばいまたは低くなっている B: 上昇傾向にあるが、合理的な理由がある C: 上昇傾向にあり、適正でない	A	
	7 管理費比率は適正か A: 横ばいまたは低くなっている B: 上昇傾向にあるが、合理的な理由がある C: 上昇傾向にあり、適正でない	A	
	8 職員一人当たりの事業収益額の推移は適正か A: 増加傾向または横ばいである B: 減少傾向だが、合理的な理由がある C: 減少傾向にある	A	
	9 基本財産や運用財産を適正・効率的に運用しているか A: 規程を整備し適正・効率的に運用している B: 規程はないが効率的な運用を行っている C: 不十分であり改善の余地がある	A	
自立性	10 県への財政依存度は適正か A: 低下、横ばい傾向または県の事業拡充等により上昇している B: 上昇傾向にあるが特殊な事情があるなど合理的理由がある C: 上昇しており自立性が低下している	A	
	11 受託等収益率は適正か A: 低下、横ばい傾向または目的事業の拡充等により上昇している B: 上昇傾向にあるが特殊な事情があるなど合理的理由がある C: 上昇しており自立性が低下している	A	
	12 補助金収益率は適正か A: 低下、横ばい傾向または目的事業の拡充等により上昇している B: 上昇傾向にあるが特殊な事情があるなど合理的理由がある C: 上昇しており自立性が低下している	A	
	13 自主事業比率は適正か A: 上昇、横ばい傾向または目的事業の拡充等により低下している B: 低下傾向にあるが特殊な事情があるなど合理的理由がある C: 低下しており、自立性が低下している	A	

自己評価の点数化集計

Aと回答した数	<input type="text" value="11"/>	× 2点	=	<input type="text" value="22"/>	点
Bと回答した数	<input type="text" value="0"/>	× 1点	=	<input type="text" value="0"/>	点
Cと回答した数	<input type="text" value="0"/>	× 0点	=	<input type="text" value="0"/>	点
				計	<input type="text" value="22"/> 点 …①
総回答数	<input type="text" value="11"/>	× 2点	=	<input type="text" value="22"/> 点 …②	比率 $\frac{①}{②} \times 100 =$ <input type="text" value="100"/> %

経営評価報告書[総合評価シート(各法人共通)]

(J)

1. 評価結果(個別観点)

観 点	評価内容	評価
団体のあり方	しまね海洋館の管理運営にあたり、設立目的に沿った運営を行っている。 また、開館当初から水族館の管理運営に携わり、運営のノウハウと関係地域及び各関係機関との連携体制も兼ね備え、これらを活かした事業展開を行っている。	A
組織運営	効率的な人員配置・組織運営を行っている。組織機構の改正及び職員採用を行い、施設整備による管理施設の増加及び繁殖等による飼育生物の増加などに対応している。 また、日本動物園水族館協会主催の研修会をはじめ、各種研修会に積極的に参加し、職員のスキルアップを目指している。	A
事業実績	平成29年度に実施した本館シロイルカプール全面改修が終了し、パフォーマンスも再開し、大きな商圏である山陽方面を中心に宣伝・広告・集客に努力してきた。その効果もあってか、2月末の段階で前年度の入館者を超えており、前年度越えの入館を大きく期待したが、3月に入り新型コロナウイルス感染拡大防止対策のためシロイルカパフォーマンスをはじめ各種イベントを休止せざるを得ない事態となり、急激に入館者が減少することとなった。 シロイルカやペンギンをはじめ生物の飼育・繁殖において確かな実績を残しており、教育普及活動においても各種事業を通して継続的な活動実績を残しているとともに、環境教育における拠点施設となる事業も開始し、さらなる充実を図っている。事業実績事態は良好であったと考える。	A
財務内容	入館者の低減とともに収支の赤字が続いており、単年度収支の改善が当面の課題となっているが、当面の安定運営に必要な資産を保有し、財務の健全性は確保しており、財産状況に関する公益法人の適用要件(遊休財産保有規制)についても良好な条件で満たしている。	A

評価の目安

A: 良好である B: ほぼ良好である
C: やや課題がある D: 課題が多い

2. 総合評価(今後改善すべき内容、方向性等)

課題の内容等	今後の方向性等
中四国エリアでも水族館が新規オープン、リニューアルされ競争が激化する中で、開館して20年を経過した展示等を大幅に変更することが難しいながら、どう特色をだしていくか。	昨年度しまね暮らし推進課で実施されたアンケート結果等を踏まえて、魅力アップに向けた方策を短期だけではなく、中長期的な面からも検討していきたい。
石見海浜公園区域(Dゾーン)で営業活動する団体間での調整が必要。多客日対応に対する団体間の意識統一が難しい。(お客様が増えればコストだけが増えるという仕組みの団体では管理が難しい)	石見海浜公園及び石見地域の活性化のため、団体それぞれのあり方や管理区域の再検討が必要と感じている。公園全体で「石見地域に人を呼び込み、いかに活性化させるか」という共通認識の醸成、共同企業体のような仕組みが必要と考える。